

平成 30 年度

事業所名 : グループホームいわいずみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームいわいずみ		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2		
自己評価作成日	平成30年8月4日	評価結果市町村受理日	平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kanistrue&ji_gvssyoCd=0393000047-00&Pr_Ct=03&Ver_si_enCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれホームの中から季節の移り変わりを感じ思ひの場所で穏やかに過ごす事が出来ている。ご家族との繋がりが途絶えることが無いようにテレビ電話(ぴーちゃんネット)で会話したり、面会に来ていただいたりドライブや買い物の時、自宅に寄ってコミュニケーションが出来ている。地域の方々との協力体制・連携も出来ており、月1回のサロンの百歳体操に出かけ顔なじみの関係も出来ている。ホームの夕涼み会に向町さんさの方の参加で子供達や、地域の沢山の方々に盛り上げてもらい楽しんでいる。避難訓練や、防災訓練等行政の方や、地域の方々の協力・支援を頂き、緊急通報装置に地域の方の登録もしていただき協力体制が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、主要道路に近接し、緑豊かな森林や川が近くを流れる自然環境に恵まれた場所に位置し、周辺には、給食センター、住宅、農家などがあり生活環境も整っている。グループホームの理念である「地域との共生」のもと、年4回発行する広報紙を地域住民にも配布して活動状況をお知らせするほか、夕涼み会の開催や小・中学生の訪問、ピアノ発表会の開催、地域の伝統芸能、ボランティア受け入れ、避難訓練への地域住民の協力・支援、地域の清掃活動への参加など、地域との交流に力を入れている。また、家族や利用者の意向に沿って外出、買い物、食事、入浴などの要望を叶えるほか、利用者の経験と知識を活用し、調理の手伝い、畑仕事、洗濯物の整理など、業務の一部を担うことによる生きがい対策を進めるなど、利用者本意のサービスを提供している。運営推進会議の意見や提言を業務に反映させるとともに、行事、広報、緑化などの各計画を職員が立案し、新たな事業展開や施設、設備の改修を行っている。職員の資格取得の支援、職員の知識、能力と勤労意欲の向上に努め、より充実した介護サービスの提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホームいわいずみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務室の目に付く所に掲示し、部署目標も全職員で話し合いをもって決定し共有し実践に取り組んでいる。	職員の話し合いを経て定めた理念を施設に掲示するとともに、職員会議等で共有、確認している。また、毎年、業務目標、個人目標を立て、その成果を職員会議で随時見直し振り返り、より良いサービスの提供に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事にも参加しホームの夕涼み会には子供会や地域の方々が参加し交流を深めている。月1回のサロンにも出かけ、地域の方々と顔なじみになっている。	近隣住民と散歩途中に声を掛け合い、日頃から山菜や野菜の差し入れを頂くほか、小、中学生との相互交流、伝統芸能やボランティアの訪問、避難訓練への住民の参加協力、事業所の夕涼み会への地域の方々の来訪、職員も地域のサロンや清掃活動に参加するなど、地域との交流は枚挙に暇がない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報を年4回発行し日常の出来事等伝えている。運営推進会議にも多方面の方々に参加いただき意見を頂いたりホームの様子を報告できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換や情報交換、会議の中でも入居者の体調にも気をくづばてもらい改善点や意見は取り入れている。ホームの活動や現状も報告できている。警察・消防の職員に参加いただき防犯訓練も提案があり実践できた。	町の担当者や地域包括支援センターの職員から行政情報や助言を頂き、民生委員や自治会長は地域の様子などを話してくれる。ゲストとして消防署員や警察署員を招き、防災対策から不審者対応など、業務の改善に繋がる専門分野の知識を得る機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にも参加頂き、電話等でも協力関係を築き入居相談や受け入れ等協力連携が取れている。	町主催の講演会や法改正の説明会に出席しているほか、家族の要請による要介護認定の申請手続きの際に職員から助言、指導を得ている。全戸設置の有線放送端末からも行政情報、災害情報を得ている。	行政等で開催する「認知症カフェ」への支援方法等について、関係機関との調整やグループホーム内での検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で話し合い意識をもち拘束をしない事があたりまえとなっている。	法人で定めた身体拘束ゼロの宣言を掲示しているほか、法人の身体拘束防止委員会に施設長が出席し、その結果や他団体等の身体拘束事例情報などを職員で共有している。身体拘束の事例はなく、玄関の施錠も夜間のみとなっている。転倒予防のベッドのセンサーは、3室に配置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループで委員会を立ち上げ参加し、カンファレンス、勉強会において、職員で共有し虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前居た入居者が利用し関係機関と連携をとっていたが、現在利用している入居者は居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明に理解を頂き次の施設との連携をはかり退居時には不安の無いよう理解を促すように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直し病院受診後の報告・面会時や誕生会・家族忘年会など参加いただき日頃ごろ感じていることや、疑問に思っていることなど運営に反映出来ている。	広報紙を年4回発行し、家族に配布する際に、居室担当職員が利用者の状況をメモ欄に記載、報告し、意見や要望を得ている。誕生会や来所時に家族から要望を聴き取るほか、遠方の家族へは電話等で確認している。日々の生活の中で利用者の意向を把握し、作業の手助けや買い物などの支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議での業務収支会議の内容をホームの業務会議で報告し、意見等聞き入れ、個人面談や日常の会話の中でも意見等聞き入れ反映できている。	連絡ノートへの記載や毎月開催のカンファレンスでの意見や提案のほか、年3回、施設長による個別面談を実施し、職員の要望等を聴いている。日常業務においても、話しやすい雰囲気のもと、意見等を受け入れ、業務に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談で意見を聞き、個人目標を設定し個々の意見を尊重をし個々の評価を元に給与等反映されている。また、突然の有給時も他職員でカバー出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の勉強会や個々に合わせた研修会等へ参加出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沿岸北ブロック研修で他ホームの職員間の情報交換し実践に生かしている。新施設の研修場として職員派遣し認知症の研修会を行いネットワーク作りができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査、面接時に意向を確認し入居後は日常生活の中でも会話や行動から要望、不安をくみ取り、聞き取りの難しい時は家族から情報を頂き、その時々で変更し、安心できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族と連絡を取ったり面会時状況報告をし意向を確認し相談し合う関係作りが出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請事に他事業所の空き状況を家族に伝え連絡を取り、相談し状況に応じて特養、老健等必要と思われる情報を伝え、対応出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ出来る事、やって来た事の継続を、ささいな事でも布巾たたみ調理掃除縫物等手伝ってもらい感謝の言葉を伝え、持っている力、知識を発揮できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加いただいたり面会時一緒に食事を摂る時間をもうけたり、不穏が見られる時は、テレビ電話で会話したり来所していただき支えていく関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や息子さんの店に出かけたり、地区行事に出かけ馴染みの人たちと一緒に過ごしたり正月やお盆には自宅に外泊出来ている。	知人や友人、親戚の訪問や地域住民の山菜、きのこ、野菜の差し入れのほか、伝統芸能の披露、地域のお祭りの見学、ボランティアフェスティバルへの参加を通じて、近所の顔見知りと懇談している。外出の際に自宅やその周辺にも出向いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	椅子の置き場所に配慮し入居者が気の合う同士集まり話ができる場所を作ったり、一人の時には声をかけ回りの状況をお話し、一緒に輪に入り過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居したが、その後のサービスにつながるように情報提供し御家族が安心出来るよう支援しその後の相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話から本人や、御家族、の意向から、ニーズを引き出し本人の気持ちに沿ったプラン作りに努めている。	日頃の生活の中で、利用者に寄り添いながら要望などを把握している。外出や買い物、食事、畑作業などに対応している。日々の変化や気づきなどは、業務日誌や連絡ノートに記載のうえ、カンファレンスで話し合い、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネより情報を得たり、ご家族や本人から聞き取りしている。認定調査表のコメント欄も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の好みにより居室の配置を考えゆっくり過ごせるようにし日中でもベットで休んだり、静かな居室で読書をしたりと一人ひとりの時間を大切にし気の合う入居者同士外に散歩し出かけたりと、生活支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直し時には担当者が評価し必ず家族に意向を伺い、面会時や本人の日常生活の中からも訴えをくみ取ったり、病院受診時の医師の指示等も、毎月のカンファレンス時報告し職員全員で検討し御家族の出来る支援もプランに入れている。	短期3ヵ月、長期6ヵ月ごとに見直し、計画を策定している。居室担当による毎月の評価表とモニタリングの結果を3ヵ月ごとに公表し、カンファレンスで話し合うほか、家族の意向を面談、電話等で聴き取り、医師や看護師の指示、指導を反映させたいうえで、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録・チェック表で記録し申し送りに情報共有し全職員で計画の見直しをし、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望意向に応じ身体状況の変化にも対応しその都度対応出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ近所の方と会話できたり、地域の行事に参加する事で顔見知りも増えて、知人とも会い会話できている。散歩コースにベンチで休憩できる場所もあり、楽しく元気に過ごせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院には職員が同行し必要な受診ができており、看護師に相談でき、緊急時も適切な治療が受けられている。受診後は御家族に電話で報告している。	8名が協力医であるかかりつけ医を受診し、1名が従来からの担当医である病院を受診している。受診は職員が同行し、診療内容は家族に報告している。歯科は訪問診療を受けている。感染症の予防は、協力医が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師やほほえみの里の医師、看護師にも相談でき支援で来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ご家族を交え医師、看護師と相談し、情報交換し状況が変わった時にご家族と相談し方針を共有し、特養への入所につなげ不安なく病院ご家族との関係作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化が見られたときなど、その都度、ご家族に連絡をとり意向を確認し方針を共有し不安なく次につなげて連携が取れている。	入居の際に看取りはしない旨の説明を、利用者、家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、かかりつけ医の指示等を受けて、家族等に連絡し、改めて意向を確認し、特別養護老人ホームへの入所や病院への入院を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習を受講し心肺蘇生法を学び、緊急時の対応を実践できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回行い問題点等運営推進会議で話題にし意見を伺い、防災訓練や炊き出し訓練等地域の方々にも参加いただき協力体制が出来ている。	消防団員や地域住民の協力を得て、消防署員の立会いの避難訓練(夜間想定を含む)1回、単独の避難訓練1回を実施している。ハザードマップを確認し防災マニュアルも策定し、戸外への段差をスロープに改修したほか、家族や民生委員などの参加を得て炊き出し訓練を実施した。ガスコンロ、発電機、反射式ストーブを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声がけやトイレ後の声がけも耳元で回りに気を配っている。職員と入居者が馴れ合いになっているが、カンファレンス等で注意点等確認し統一したケアをしている。	個人情報、個別にファイルし、事務室のロッカーで管理している。広報紙への写真掲載は、家族の同意を得ている。失禁者などへの対応は、心情を大切に、他者に気づかれないように配慮し処置している。日常の言葉づかいにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パン屋さんが来所した時自分で選べるよう声がけや、帰宅願望時一緒に外に出たり、家族に電話をかけたい時には、びーちゃん電話を使用し会話できている。バイキングの食事でも自分で選べる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	玄関、ホール、居室で自由に温度管理している所で過ごして体調管理出来ている。外出希望時は付添い、車で買い物に出かけたりと本人の希望に合わせ無理なく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んで購入し、服等購入し髭剃り支援、身だしなみは、本人の好みに合わせ散髪もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあわせ節句など楽しく食事が出来るよう工夫し、誕生会には自分の好きなものを希望し楽しい食事があったり、下ごしらえや片付けも皆で協力している。	メニューは、職員が作成し、食材は利用者と一緒にスーパー等で購入している。地域の方々の差入れも活用している。利用者も手伝った旬の食材の料理や郷土食、家族参加の誕生会の希望料理、外出の際にはラーメン、カツ丼、回転寿司のこともある。提供した食事(メニュー)は、栄養士の指導を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の入居者の為栄養師に指導を受けバランスが取れた食事になっている。ご家族からの差し入れも希望時渡している。水分量記録を見て不足な時は好みの物ですすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時うがい等口腔ケアし毎食後個々に対応し歯間ブラシや舌ブラシ等準備し汚れが残っているときは、介助で口腔内の清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し時間の間隔を確かめ声をかけ誘導し失敗しないようにしている。また夜間時居室にポータブルトイレを置いて支援している	バイタルチェック表と併せて排泄チェック表を作成し、利用者ごとに誘導、案内している。失敗があれば心情を大切に、他者に気づかれないよう配慮している。夜間のポータブルトイレ利用者は3名で、転倒防止センサーと併せて活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し水分や食材で対応したり散歩や体操をし体を動かし様子を見て処方されている薬で調整をし便秘予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが入浴希望の方は体調をみながら、一人ひとりゆっくりと入浴できるようタイミングや順番に配慮しながら支援している。	毎日、午後を入浴時間とし、2日に1回の入浴としている。広々とした湯船に2名で入浴することもある。菖蒲湯や入浴剤を利用するほか、昔話などに花を咲かせ、楽しいひと時になっている。入浴を拒否する方には、話題の転換したり、翌日の入浴、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明にも気を配り、のれんを付け個々に対応している。夜間淋しがる人はドアを開け職員が見守り出来るよう安心して休めるような支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の勉強会を定期的に関催し質の向上に努め副作用等勉強出来ている。薬の多い人は、カップに入れ、むせる人は水にトロミつけスムーズに服薬できるよう支援出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暦めぐりや、野菜の下ごしらえ、頂き物の野菜の下ごしらえ、畑作りや、草取り花の水やり、食器洗い等個々に力を発揮できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑仕事収穫、散歩、本人の希望で買い物の同行、季節の花ドライブや、お盆にご家族と墓参りに出かけたり、地域行事や知人の面会や、自宅にも家族の都合に合わせて出掛けられるよう支援している。	天気の良い日は周辺の散歩のほか、畑作業、買い物などに出かけている。行事計画によるドライブで、温泉、道の駅、海岸、サクランボ狩り、祭り見学などに出かけるほか、家族と外泊、外食する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様は本人が所持している。ご家族希望で事務室で預かり外出時や買い物時使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話をかけたりご家族からの電話を取り次いだり、難聴の方には音量調節の出来る電話を使用しスムーズに会話でき、ぴーちゃん電話で顔を見ながら会話出来るよう支援している。郵便物も職員が取り次ぎ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳間の段差が低くなり自由に上がる事が出来太陽がまぶしいときはカーテンを引いたり、横になり新聞等広げてゆったり過ごす事が出来、四季に合わせて飾り物をし季節感を味わっている	南向きの高い天窗から、日差しが差し込み、ロビーは明るく、夏場は葎、カーテンで調整している。室温は、パネルヒーター、エアコンで管理され、必要に応じて加湿器、扇風機、ストーブを使用している。広々としたロビーと段差を低くした畳の小上がりなどに食事用テーブル、ソファが配置され、生花、鉢、作品、季節の飾りに囲まれ、それぞれ、テレビやラジカセを視聴したり、会話などで寛いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き畳間のソファにも自由に気の合った方と座り、玄関や、ホールに椅子を置き会話できている。読書の好きな入居者は居室で本が読めるよう配置し穏やかに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に確認しベット位置を決め、ご家族と相談し居室にテレビを置いたり位牌を置いて自宅と同じ状態で本人希望で好みの部屋になっている。	ベッド、タンス、洗面台、テレビ端子、ナースコールが設置され、フトン、衣類、家族写真、テレビ、化粧品、位牌など、利用者の意向に沿って配置されている。室温はパネルヒーターとロビー設置の大型エアコンで管理され、快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には名前をつけ下足にも本人が迷う事無く生活できるよう工夫している。		